

令和4年度評価会議 議事録（要旨）

日時：令和5年1月19日(木) 10:00～12:00

場所：阿南商工会議所 研修室

出席者：委員3名 藤田、石畑、尾崎、坂本（欠席）

事務局5名 清原、藤井、西沢、沢田、芝山

事務局	「令和4年度DMO四国の右下観光局評価会議」を開会する。
理事長	○開会あいさつ（清原理事長） ・全国、右下における観光需要の回復状況について ・DMO第一期の取組状況について 具体的方針・施策を抜粋 ・選べる味覚、選べる体験、マイカープランなどの継続販売実施 ・ミレニアム世代を中心とした女子旅 ・インバウンドや富裕層をターゲットとした長期滞在・高付加価値型コンテンツの開発 ・エリア文化の賄い手、事業継承などを目的としたワーケーションツアーの実施 ・地域の小中学生を中心としたふるさとの教育プログラム開催魅力発見スタディツアー ・DMO第二期におけるKPI、ターゲット設定について ・これまでの取組に対する検証・評価のみならず、2025年大阪・関西万博を見据えた取り組むべき方向性についても御意見・御提言を賜りたい。
事務局	○評価委員の紹介 ○事務局職員の紹介 ○評価会議の趣旨説明 ・DMO二期目に入り、継続の要件として国の形成確立計画の改訂を行わなければならない。 それにおいて今までに行ってきた事業内容をについて、外部委員の方々に評価いただき、それらを参考にPDCAサイクルを回していくこともDMOの要件として求められている。 本日は、右下エリアを深掘りした意見、内容の濃い議論をお願いしたい。

事務局	<p>○配布資料に基づき説明（資料①藤井説明、資料②③沢田説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光局の組織・運営体制について ・R3年度の実績、KPI達成状況について ・新たな第二期計画の主な改訂内容について説明 <ol style="list-style-type: none"> 1. 着地型旅行商品の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・選べる味覚・体験マイカープラン ・ワーケーション商品化に向けた実証 ・DMVを活用した誘客促進 2. 体験旅行・教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・四国の右下スタディツアー ・牟岐ツアー 3. 特産品の開発・販売
事務局	<p>○「観光地域づくり法人形成・確立計画」の改訂内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施体制 ・合意形成の仕組み ・戦略（主なターゲット、誘客に向けた取組方針） ・新たなKPI設定 ・活動に関わる運営費の確保
評価委員	<p>○委員による評価・検証</p>
評価委員①	<p>資料②のほうでコロナの状況下において、特にうまくいった事業についての分析結果（客層、年齢層、移住エリア）、及び今後の継続に向けての気づきなどは？</p>
事務局	<p>特にマイカープランについては、コロナ禍において非接触型の旅行、マイクロツーリズムが推奨される中、予想に反し、年配層だけでなく、若い世代の申込みがあった。</p> <p>今後もトヨタの高級レンタカーとの連動、右下の大きな課題である二次交通体制の構築に向け、通年、定番商品として継続販売する。</p>
評価委員①	<p>参加者の居住エリアに関してはどうだったのか？</p>

事務局	<p>コロナ渦の中においては、県内を対象として商品を販売、本来はレンタカーを首都圏、関西圏をターゲットに想定しているが、コロナ終息後は当初のねらいどおり県外向け商品として販売していきたい。</p> <p>その他ではふるさと教育プログラムツアー（スタディツアー・牟岐ツアー）は参加者からも高評価をいただいている。</p> <p>今年、初めて、子どもたちだけで参加するツアーを企画したが、保護者も参加したかったとの声もいただいたし、徳大、四国大学の講義で、このツアーを紹介したところ大学生から参加対象にしてほしいとのリクエストもあった。</p>
評価委員②	<p>DMVが県南で最も注目されている中、その周辺の施設も潤っている。今後はDMVを核にしながらも、更に広範囲でエリアを楽しんで頂けるような一般団体、修学旅行などを対象としたパッケージツアーの開発が必要ではないか。</p>
事務局	<p>DMVについては観光面での利用を促進し、主に「DMV + 1」、教育旅行（修学旅行）など、広範囲での観光や学習利用に使用できるようなコンテンツになればと考える。</p>
評価委員②	<p>当社（旅行社）が作成している日帰りのDMVツアーは好評ですぐに売り切れる（主には県民向け）が、車両収容人数が少ないので旅行単価が上がるのが販売におけるネックである。</p> <p>逆に県外からの利用客については大手旅行社を中心に、は「鉄道ファン」といったニッチな客層だけにアピールされているので、一般層に大々的に大量販売していくのは少し難しい。</p>
事務局	<p>今後、乗り鉄、撮り鉄ファンの個人客層が徐々に減少していく見込み継続的にDMVの誘客を推進していくため、近隣エリアでの体験メニューを組み合わせた「DMV + 1」などのプログラムを造成しながら、教育旅行などを中心として売り込んでいきたい。</p> <p>従来の教育旅行は、関西、中国、四国がメインだったが、今後、県、3 DMO 連携の取組として関東エリアの私立学校へのアプローチ強化を図っていく予定。</p>

<p>評価委員③</p>	<p>メディアからの露出に関しては徳島県県内では、近年、特に右下エリアが注目されている。</p> <p>その中で、観光局として様々な事業を行っているのは素晴らしいが、大きな軸（柱）となり得る一点集中して事業を行ってみてはどうかと考える。</p> <p>いわゆる尖った素材（キラーコンテンツ）を徹底して磨き上げる事業を行うのも戦略としてありではないか。</p>
<p>評価委員③</p>	<p>今後、着地型旅行商品を展開する上で、右下の魅力をより知ってもらうためには、専門ガイドの育成が大きなポイントではないかと考える。</p>
<p>評価委員②</p>	<p>ただ観光するだけでなく、地域のSDGs的な要素や環境、文化、伝統工芸などにも精通したガイド人材やツアーが必要。</p> <p>ツアー中においてはエリアに精通したガイドが同行するか否かで、顧客の満足度が全く異なってくるので、ガイド育成の重要性が求められる。</p>
<p>評価委員①</p>	<p>県内全体ではボランティアガイドの育成に力を入れているが、ここ数年はコロナ禍でオンライン等での育成が主になっている。</p> <p>有償ガイド育成の必要は感じているが、県内にはそれに該当する人材が現状は少ない。</p>
<p>事務局</p>	<p>将来において、個人旅行や教育旅行に適した右下のようなエリアでは、特に地域の歴史や自然背景などを解説できるようなガイドの育成は重要となってくる。</p> <p>これは観光局レベルでは難しいので、県をあげた有償ガイド育成システムの構築が必要であると考えます。</p> <p>閉会の挨拶</p>

<p>評価委員④</p>	<p style="text-align: center;">～別日にて、個別訪問～</p> <p>組織体制がサステイナブルになっていないことの指摘。 組織の人材が短期間で異動することで、事業の継続性やスピード感ある事業展開が難しくなるのではと考える。</p> <p>その上で自主財源を確保した上でのプロパー職員の増員が組織維持のためには必要であると思われる。</p> <p>また、右下エリアにおいての地域の自然環境や、人々の生業や繋がりをメインとして盛り込んだ着地型ツアーの開発とそれに伴う専門ガイドの必要性を感じる。</p>
--------------	--